

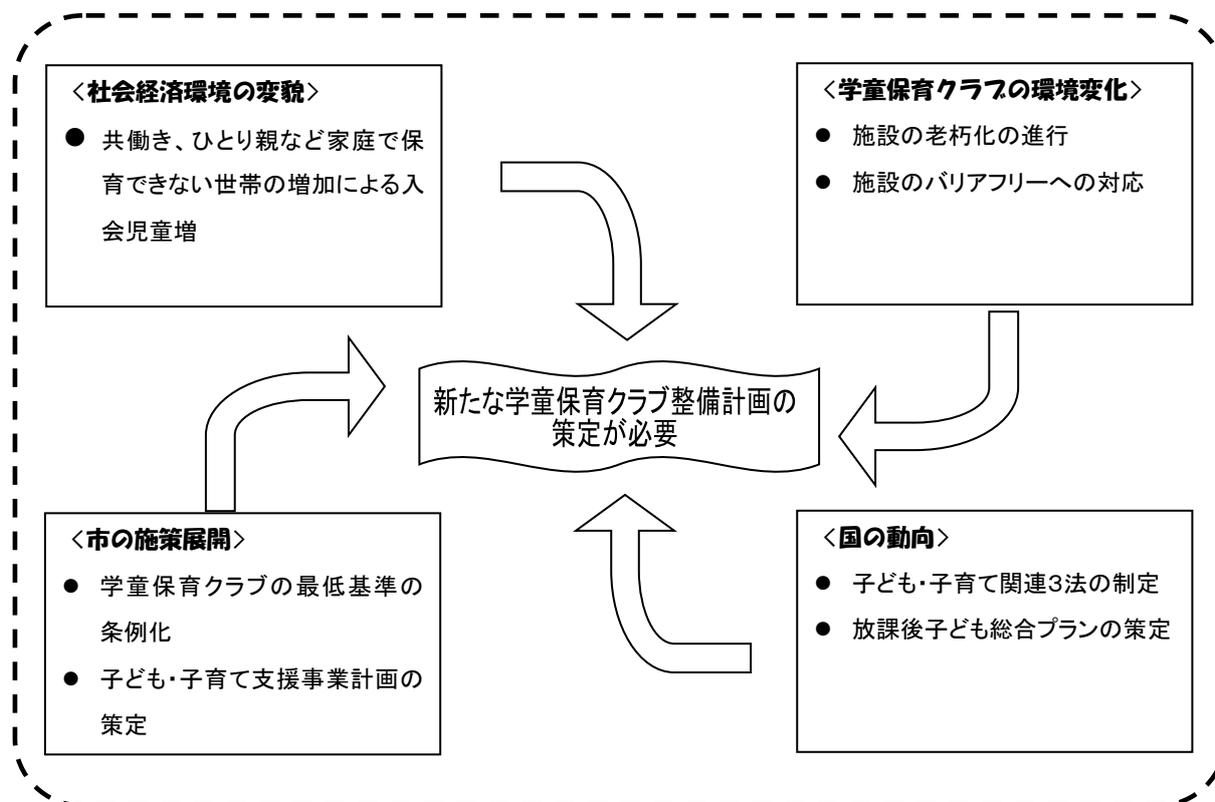
学童保育の質の向上5ヵ年計画 ～子どもたちの安全と安心のために～

第1 策定の背景・目的

現在、すべての小学校区に学童保育クラブが設置され、身近な地域で学童保育クラブを利用できる環境ですが、施設が小学校から離れている、または老朽化しているなどの課題があります。また、最近5年間では入会児童数が増え続けており、狭あい化する施設が増えています。これは共働き、ひとり親家庭の増加により学童保育クラブを必要とする児童が増えたためと考えられます。総務省の行っている労働力調査によると、2001年の共働き世帯の割合は全体の33.3%でしたが、2014年には同割合が37.7%まで増加しています。また、厚生労働省の行っている国民生活基礎調査によると、児童のいる世帯のうち、ひとり親の世帯は2001年では5.1%でしたが、2013年には7.5%となっています。

さらに、2015年4月から子ども・子育て支援新制度の施行により、学童保育クラブの最低基準を市が独自に条例で定めることが義務付けられ、新制度に伴う、新たな施策展開への対応も必要になってきています。

このような背景から、就労等により保護者が日中不在になる家庭の児童が安全かつ安心して過ごせる生活環境を整備し、児童の健全な成長を支援するため、今後5年間の取り組みの方向性を示す「学童保育の質の向上5ヵ年計画 ～子どもたちの安全と安心のために～」を策定することといたしました。



第2 計画の位置づけ

本計画は、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」の方向性を具体化するために2012年度に策定された「町田市新5ヵ年計画」を実現することを目指します。

また、「町田市子どもマスタープラン」、「町田市子ども・子育て支援事業計画」との整合を図ります。

第3 これまでの計画で実現した内容

2010年に「学童保育クラブ整備計画」を策定してから、小学校敷地内への移転による児童の安全確保（遠距離学童保育クラブの解消）、増築による児童の保育環境の改善（狭あい化学童保育クラブの解消）、建替・改修による児童の安全確保（老朽化学童保育クラブの解消）などを実現してきました。

年度	学童保育クラブ名	小学校区名	解消した課題
2010年度	木曾	忠生第三小	遠距離
	成瀬中央あおぞら	成瀬中央小	遠距離
	木曾境川	木曾境川小	狭あい化
	小山ヶ丘	小山ヶ丘小	狭あい化
2011年度	そよかぜ	南第二小	老朽化
	大戸のびっ子	大戸小	遠距離
	小山中央	小山中央小	狭あい化
2012年度	南大谷	南大谷小	遠距離
	函師	函師小	狭あい化
2013年度	金森	南第三小	遠距離
	なかよし	忠生小	老朽化
2014年度	山崎	山崎小	遠距離
	野津田	鶴川第一小	狭あい化
	小山中央	小山中央小	狭あい化
	小山	小山小	狭あい化

第4 町田市の学童保育クラブにおける現状と課題

○ 入会児童数の大幅な上昇

2010年8月の「学童保育クラブ整備計画」策定当初は、小学校の児童数の減少に伴い、学童保育クラブの入会児童数も減少することが見込まれていました。しかし、昨今の経済状況等も踏まえ、共働き世帯が増加した等の理由により、小学校の児童数と反比例し、学童保育クラブの入会児童数は増加しています。その結果、策定当初では想定していなかった施設が狭あい化したり、児童が日常的に過ごすスペースの広さは足りていても、トイレ・手洗い等の設備が不足したりする施設が見られます。



○ 町田市の制度と他自治体の制度との比較

町田市では一定期間内に申請があり、要件を満たしている児童は全員の入会を承認しているため、他市と比較していわゆる待機児童が少ないという強みがあります。東京都29市町で町田市以外に同様の制度を設けている自治体は7つとなっています。また、町田市は1施設あたりの障がい児の定員を設けておらず、これも町田市以外では29市町中7自治体となります。両方の制度を取っている自治体になると、町田市以外では29市町中2つの自治体(国立市、日の出町)しかありません。

第5 国の動向等

○ 子ども・子育て支援新制度の施行

子ども・子育て関連3法の施行に伴い、2015年4月から子ども・子育て支援新制度が始まり、学童保育クラブ事業の量を確保するために、各自治体で子ども・子育て支援事業計画を策定し、計画的に整備することとなりました。また、学童保育クラブの最低基準を市が条例で定めることが義務付けられ、児童が日常的に過ごすスペースの面積は、1人あたりおおむね1.65平方メートル以上確保することとなりました。

現在、町田市では一定期間内に申請があり、要件を満たしている児童は全員の入会を承認しています。今後もこれを維持し、また条例で定めた基準を遵守していくため、狭あい化が著しい学童保育クラブは、適切に整備していく必要があります。

また、新制度施行に合わせ、児童福祉法が改正されたことにより、学童保育クラブの対象児童が現行の「おおむね10歳未満(3年生まで)」から「小学生(6年生まで)」に拡大されます。2013年度に行ったニーズ調査の結果から、町田市でも4年生以上の児童の受け入れに対するニーズがあることがわかっています。

☆ 町田市子ども・子育て支援事業計画における学童保育クラブのニーズ量と確保の内容

		2014年度 (実績)	2015年度 (1年目)	2016年度 (2年目)	2017年度 (3年目)	2018年度 (4年目)	2019年度 (5年目)
①ニーズ量	低学年	3,173	3,330	3,426	3,501	3,535	3,536
	高学年	55	702	715	743	758	779
	合計	3,228	4,032	4,141	4,244	4,293	4,315
②確保の内容	施設数	43	43	43	43	43	43
	低学年	3,173	3,330	3,426	3,501	3,535	3,536
	高学年	55	55	55	55	55	55
	合計	3,228	3,385	3,481	3,556	3,590	3,591
過不足(②-①)	低学年	0	0	0	0	0	0
	高学年	0	▲647	▲660	▲688	▲703	▲724
	合計	0	▲647	▲660	▲688	▲703	▲724

※町田市子ども・子育て支援事業計画(2015年3月策定)より抜粋

※「確保の内容」とは、ニーズ量を満たすために提供する量のこと。3年生までは要件の満たす児童を全員受け入れるため、低学年のニーズ量と確保の内容は等しくなる。高学年は障がい児のみを受け入れるため、確保の内容が少なくなっている。

○ 「日本再興戦略」の改訂

2014年6月に改訂された「日本再興戦略」では、女性の活躍推進のため、安全で安心して子供を預けることができる環境の整備を鍵となる施策として位置づけています。その一環として、学童保育クラブの拡充を掲げており、国全体で2019年度末までに30万人分の受け皿の拡大を目指しています。

○ 放課後子ども総合プランの策定

上述の「日本再興戦略改訂」に基づき、就労等により保護者が日中家庭にいない児童だけでなく、すべての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる居場所を計画的に整備するため、厚生労働省と文部科学省が合同で「放課後子ども総合プラン」を策定しました。このプランでは、学校が児童にとって安全に過ごせる場所であることを明記し、学童保育クラブの整備にあたっては、責任体制の明確化等に留意しつつ、学校教育に支障が生じない限り、余裕教室や放課後等に一時的に使われていない教室等の徹底的な活用を促進するものとされています。

○ 省エネ・地球温暖化防止への取り組み

東日本大震災を契機とした社会的な節電に対する行動や意識の向上、再生可能エネルギー導入への関心の高まりなど、省エネに対する考え方も大きく進んできています。学童保育クラブの整備にあたっては、行政として率先的に環境への配慮を図り、施設の断熱化や省エネ機器の導入など省エネ・温暖化防止に取り組むことが求められます。

第6 計画の期間

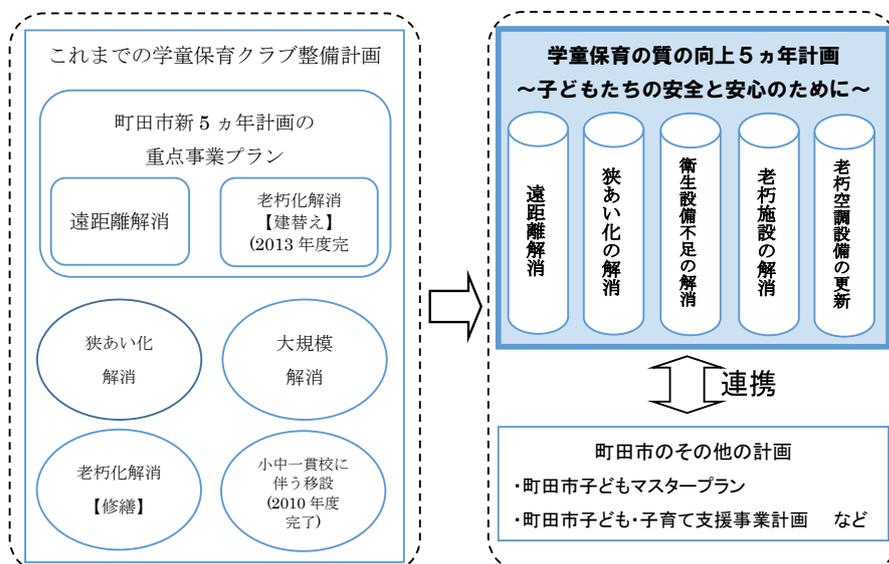
本計画の期間は、2015年度から2019年度までの5年間とします。

なお、町田市における他の関連計画や、国の制度改正との整合を図るため、必要に応じて計画の見直しを行います。

第7 計画の構成

これまで実現した内容や近年の国の動向等を踏まえ、課題を以下の5つの項目に設定しなおし、この解消を柱として整備を進めます。

○計画のイメージ



1 遠距離学童保育クラブの解消

- 遠距離の定義: 小学校から道のりで約400m以上離れている。

児童が放課後等に事故や犯罪に巻き込まれず、安全に通所するためには、できる限り小学校から移動することなく学童保育クラブに通所することが必要です。そのため、「町田市新5ヵ年計画」の重点事業プランでは、遠距離学童保育クラブの解消を掲げています。児童の登降所上の安全を確保するため、計画期間中にすべての遠距離学童保育クラブを小学校内または近隣地に移転させることを目指します。

➤ 対象施設

学童保育クラブ名	小学校区名	小学校からの距離(道のり)
金森第二	南第一小	約550メートル
三輪子どもの学園	三輪小	約615メートル
子どもの森桜台	小山田南小	約520メートル

2 狭あい化の解消

- 狭あい化の定義: 児童1人あたりの日常的に過ごすスペースの面積がおおむね1.65平方メートルに満たない。

入会児童数の増加に伴い、狭あい化する施設が多く見られます。学童保育クラブは、児童の生活の場でもあることから、児童の事故や怪我を防止し、身体面、精神面の負担の軽減を図ることが重要です。そのため、狭あい化の著しい学童保育クラブを適切に整備します。

➤ 対象施設

学童保育クラブ名	小学校区名	今後5年間で最も狭あい化する年度の児童1人あたりの面積	
子どもの森桜台	小山田南小	0.88平方メートル	2016年度
三輪子どもの学園	三輪小	0.96平方メートル	2016年度
ころころ	町田第五小	1.09平方メートル	2015年度
鶴間ひまわり	鶴間小	1.14平方メートル	2017年度
学童21	町田第二小	1.29平方メートル	2017年度
鶴川	鶴川第三小	1.35平方メートル	2017年度
竹ん子	町田第三小	1.58平方メートル	2016年度
南大谷	南大谷小	1.60平方メートル	2016年度
函師	函師小	1.62平方メートル	2015年度
どろん子	南第四小	1.64平方メートル	2017年度

3 衛生設備不足の解消

- 設備不足の定義: 小学校のトイレの適正個数を基に算出した数より、1以上器具数が少ない。

入会児童数の増加に伴い、トイレ・手洗いといった衛生設備が不足している施設が見られます。これらは児童の生活に必須な設備であるため、その不足を解消することで児童の適切な衛生環境を確保します。整備にあたっては、施設の規模、保有数、標準器具数などを踏まえ、必要性の高いクラブから順に進めます。

➤ 対象施設

学童保育クラブ名	小学校区名	不足する衛生設備
大蔵	大蔵小	トイレ・手洗いの両方
子どもの森桜台	小山田南小	
鶴川	鶴川第三小	トイレのみ
三輪子どもの学園	三輪小	
七国山	七国山小	手洗いのみ
学童21	町田第二小	
高ヶ坂	町田第六小	
ころころ	町田第五小	

4 老朽施設の解消

- 老朽施設の定義: 築年数が20年以上を経過している。

経年劣化に伴う、屋根や床、外壁、窓わく等の破損や、ガスや水道、電気など設備配管等の老朽化は、機能面だけでなく、児童の安全性も脅かされることがあります。「町田市新5ヵ年計画」の重点事業プランでは、老朽化学童保育クラブの解消を掲げており、施設そのものが老朽化した学童保育クラブは2013年度までに建て替え・改修により解消しました。しかし、2015年3月末時点で5つの施設で築年数が20年を越えており、老朽化がかなり進んできています。それ以外の施設でも、多くは2000年代初旬に建てられており、今後は一斉に老朽化が進み、2030年3月末には43施設中34施設が築20年を越えます。学童保育クラブは床面積がそれほど大きくないことから、営繕課が策定する中期修繕計画の対象となっておらず、所管課が修繕計画を立てる必要があります。児童の安全や適切な生活環境を確保するため、計画的に屋根や外壁、床の改修等を進めます。なお、小学校の運営に支障がない場合、施設の改修ではなく、校舎内に移転させることで対応します。

➤ 対象施設

学童保育クラブ名	小学校区名	建築年	築年数
子どもの森桜台	小山田南小	1987年	28年
藤の台	本町田東小	1990年	25年
鶴川	鶴川第三小	1992年	23年
高ヶ坂	町田第六小	1993年	22年
藤の台ポケット組	藤の台小	1993年	22年

5 老朽空調設備の更新

- 老朽空調設備の定義: 耐用年数(15年)を経過している。

空調設備は建物に比べ耐用年数が短く、一定期間後は部品が製造終了となり、修繕による対応ができなくなるため、適切な時期に機器を更新する必要があります。特に小学校の夏季・冬季休業日も開所する学童保育クラブにとっては、猛暑及び厳寒期の空調設備の故障は児童の健康に大きな影響を及ぼすことが懸念されるため、老朽化した空調設備を計画的に更新します。

➤ 対象施設

学童保育クラブ名	小学校区名	設置年	運転年数
森野	町田第四小	1996年	18年6ヶ月
中央	町田第一小	1997年	18年
藤の台	本町田東小	1997年	18年
金森第二	南第一小	1998年	17年
竹ん子	町田第三小	2000年	15年
大蔵	大蔵小	2000年	15年

第8 整備手法の基本的な考え方

学童保育クラブの整備にあたっては、教育委員会と連携の上、小学校の余裕教室を活用することを推進していきます。また、空調や衛生機器の導入にあたっては、低コスト・省エネの機器を選定します。

- 小学校の余裕教室を活用する理由
 - 児童が放課後にほとんど移動することなく過ごせる安全な居場所であるため
 - 校舎内にトイレ・手洗いなどの衛生設備が十分に備えられているため
 - 大規模な工事や建物の解体がないことで、環境への負荷が少なくなるため

第9 学童保育の質の向上5ヵ年計画

各学童保育クラブにおいて、上述のどの課題が該当するか整理しました。2015年度からの5年間は、以下の優先度を基準に整備するクラブを選定します。ただし、緊急的に整備の必要が生じた場合や、小学校等の関係機関との調整の進捗状況によってはこの限りとせず、財政状況等も踏まえ、柔軟に対応します。

- (1) 遠距離学童保育クラブの解消
- (2) 狭あい化の解消
- (3) 衛生設備不足の解消
- (4) 老朽施設の解消
- (5) 老朽空調設備の更新

○ 優先順位の考え方

学童保育クラブは、放課後等に児童が事故や犯罪に巻き込まれることなく安全に過ごす場所であることが求められるため、移動せずに通所できることが最も重要となります。また、児童が安心して過ごすために、施設の広さや設備を十分に確保することも重要です。老朽化した施設や設備は、日常のこまめな維持管理や修繕により、一時的に対応が可能であるため、上記に比べ優先順位が低くなっています。

年度	整備するクラブ名	小学校区	成果
2015年度	金森第二	南第一小	遠距離、老朽空調設備解消
	鶴間ひまわり	鶴間小	狭あい化解消
2016年度	三輪子どもの学園	三輪小	遠距離、狭あい化、衛生設備不足解消
	子どもの森桜台	小山田南小	遠距離、狭あい化、衛生設備不足、老朽施設解消
	鶴川	鶴川第三小	狭あい化、衛生設備不足、老朽施設解消
	大蔵	大蔵小	衛生設備不足解消
	竹ん子	町田第三小	老朽空調設備解消
2017年度	高ヶ坂	町田第六小	衛生設備不足、老朽施設解消
	森野	町田第四小	老朽空調設備解消
2018年度	藤の台ポケット組	藤の台小	老朽施設解消
	中央	町田第一小	老朽空調設備解消
2019年度	藤の台	本町田東小	老朽施設、老朽空調設備解消
	大蔵	大蔵小	老朽空調設備解消
2016年度 ～ 2019年度	学童21	町田第二小	狭あい化解消

☆ 5年間の成果(延べクラブ数)

	現状		2019年度末
遠距離	3クラブ	→	0クラブ
狭あい化	10クラブ	→	5クラブ
衛生設備不足	8クラブ	→	3クラブ
老朽施設	5クラブ	→	2クラブ(8クラブ)
老朽空調設備	6クラブ	→	14クラブ(21クラブ)

※計画期間中も老朽化は進行するため、老朽施設及び老朽空調設備のクラブ数については、かっこ内に「整備をしなかった場合のクラブ数」を併記した。

第10 その他の取り組み

1 施設のバリアフリーへの対応

学童保育クラブは障がいのある児童も利用する公共的施設であることから、すべての児童が施設を安全かつ快適に利用できることが求められます。そのため、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、「町田市福祉のまちづくり総合推進条例」の整備基準はもとより、より高い水準となる望ましい整備も満たすよう努める必要があります。

2 4年生以上の受け入れについて

学童保育クラブの対象児童が6年生までに拡大され、町田市でも4年生以上の児童の受け入れに対するニーズがあります。「放課後子ども総合プラン」では、学童保育クラブと放課後子ども教室を一体的または連携して整備することを推進しているため、4年生以上の児童の居場所として、これを調査、研究する必要があります。ただし、学童保育クラブは児童の居場所としてだけでなく、生活の場としての役割もあるため、放課後子ども教室と一体化した学童保育クラブを整備する際には、その機能を満たすよう整備することが求められます。また、4年生以上の児童は身体的・精神的な成長による男女間の違いが大きくなるため、4年生以上の児童を受け入れるにあたっては、これに配慮することも必要です。

資料1 給排水衛生設備不足の考え方

トイレの数の数え方

- ① 男子トイレ・女子トイレの小便器及び大便器それぞれの個数を数えます。
- ② 男女共用トイレ・車いす対応(みんなのトイレ含む)は、男女どちらも使用でき、また大小のどちらも対応できることから、男子小便器及び大便器がそれぞれ「0.5器」分、女子トイレ「0.5器」分とします。
- ③ ①と②の合計を各クラブの設置器具数とします。

トイレ・手洗い場の標準器具数の考え方

- ① 算定方法は空気調和・衛生工学会の「衛生器具の適正個数算定方法(1)～(8)」を用います。
- ② 算定グラフは「小中学校のトイレ」を使用します。
- ③ 男女比は1:1とします。
- ④ トイレの標準器具数は上記算定方法の「サービスレベル2(標準個数)」とします。
- ⑤ 手洗い場は児童が同時にかつ短時間に使用することから、標準器具数を上記算定方法の「女子洗面器のサービスレベル1(使用時間15秒、待ち時間10秒以内)」を準用して算定します。

衛生器具の適正個数算定方法によって算出した適正個数

男子小便器		男子大便器		女子大便器		手洗い	
児童数	器数	児童数	器数	児童数	器数	児童数	器数
1～80人	3器	1～110人	2器	1～50人	2器	1～50人	2口
81～115人	4器	111～250人	3器	51～90人	3器	51～100人	3口
116～160人	5器	251～400人	4器	91～125人	4器	101～150人	4口
						151～175人	5口
						176～220人	6口

トイレ・手洗い不足の考え方

設置器具数と、入会児童数に対する標準器具数を比較して、「1以上」設置器具数が少ないクラブをトイレ・手洗いが不足しているクラブとします。

資料2 2030年3月までに築20年を越える学童保育クラブ数の推移

学童保育クラブ名	小学校区名	建築年月	築20年を越える施設				建築年数			
			2015年3月	2020年3月	2025年3月	2030年3月	2015年3月	2020年3月	2025年3月	2030年3月
子どもの森桜台学童保育クラブ	小山田南小	1987年3月	○	○	○	○	28年	33年	38年	43年
藤の台学童保育クラブ	本町田東小	1990年2月	○	○	○	○	25年	30年	35年	40年
鶴川学童保育クラブ	鶴川第三小	1992年3月	○	○	○	○	23年	28年	33年	38年
高ヶ坂学童保育クラブ	町田第六小	1993年3月	○	○	○	○	22年	27年	32年	37年
藤の台ポケット組学童保育クラブ	藤の台小	1993年3月	○	○	○	○	22年	27年	32年	37年
わんぱく学童保育クラブ	小川小	1996年3月		○	○	○	19年	24年	29年	34年
金森第二学童保育クラブ	南第一小	1998年3月		○	○	○	17年	22年	27年	32年
中央学童保育クラブ	町田第一小	1999年3月		○	○	○	16年	21年	26年	31年
竹ん子学童保育クラブ	町田第三小	2000年3月			○	○	15年	20年	25年	30年
大蔵学童保育クラブ	大蔵小	2000年3月			○	○	15年	20年	25年	30年
学童21保育クラブ	町田第二小	2001年3月			○	○	14年	19年	24年	29年
木曾境川学童保育クラブ	木曾境川小	2002年3月			○	○	13年	18年	23年	28年
森野学童保育クラブ	町田第四小	2002年3月			○	○	13年	18年	23年	28年
すまいる学童保育クラブ	成瀬台小	2002年3月			○	○	13年	18年	23年	28年
三輪子どもの学園学童保育クラブ	三輪小	2002年10月			○	○	12年	17年	22年	27年
本町田学童保育クラブ	本町田小	2003年3月			○	○	12年	17年	22年	27年
なんなる学童保育クラブ	南成瀬小	2003年3月			○	○	12年	17年	22年	27年
鶴川第四学童保育クラブ	鶴川第四小	2003年3月			○	○	12年	17年	22年	27年
ころころ学童保育クラブ	町田第五小	2003年3月			○	○	12年	17年	22年	27年
七国山学童保育クラブ	七国山小	2004年3月			○	○	11年	16年	21年	26年
鶴間ひまわり学童保育クラブ	鶴間小	2004年3月			○	○	11年	16年	21年	26年
なかよし学童保育クラブ	忠生小	2004年3月			○	○	11年	16年	21年	26年
小山ヶ丘学童保育クラブ	小山ヶ丘小	2005年2月				○	10年	15年	20年	25年
つるっこ学童保育クラブ		2005年3月				○	10年	15年	20年	25年
どろん子学童保育クラブ	南第四小	2005年3月				○	10年	15年	20年	25年
小山田学童保育クラブ	小山田小	2006年3月				○	9年	14年	19年	24年
南つくし野学童保育クラブ	南つくし野小	2006年10月				○	8年	13年	18年	23年
鶴川第二学童保育クラブ	鶴川第二小	2007年3月				○	8年	13年	18年	23年
金井学童保育クラブ	金井小	2008年2月				○	7年	12年	17年	22年
小山学童保育クラブ	小山小	2008年3月				○	7年	12年	17年	22年
相原たけの子学童保育クラブ	相原小	2009年3月				○	6年	11年	16年	21年
つくし野学童保育クラブ	つくし野小	2009年3月				○	6年	11年	16年	21年
高ヶ坂けやき学童保育クラブ	高ヶ坂小	2009年3月				○	6年	11年	16年	21年
図師学童保育クラブ	図師小	2009年3月				○	6年	11年	16年	21年
小山中央学童保育クラブ	小山中央小	2010年3月					5年	10年	15年	20年
木曾学童保育クラブ	忠生第三小	2011年3月					4年	9年	14年	19年
成瀬中央あおぞら学童保育クラブ	成瀬中央小	2011年3月					4年	9年	14年	19年
大戸のびっ子学童保育クラブ	大戸小	2011年3月					4年	9年	14年	19年
そよかぜ学童保育クラブ	南第二小	2012年3月					3年	8年	13年	18年
南大谷学童保育クラブ	南大谷小	2013年3月					2年	7年	12年	17年
金森学童保育クラブ	南第三小	2014年3月					1年	6年	11年	16年
野津田学童保育クラブ	鶴川第一小	2014年12月					0年	5年	10年	15年
山崎学童保育クラブ	山崎小	2015年3月					0年	5年	10年	15年
合計			5施設	8施設	22施設	34施設				

資料3 各学童保育クラブにおける整備の必要性

学童保育クラブ名	小学校区名	遠距離 ○=小学校から道のり で約400m以上離れて いる。	狭あい化 ○=1人あたりの専用 スペースがおおむね 1.65㎡を満たさなくな る見込み	衛生設備不足 △=手洗いが不足 ○=トイレが不足 ◎=トイレ・手洗い両 方が不足	老朽化施設 ○=築年数が20年以 上を経過	老朽空調設備 ○=耐用年数(15年) が経過している。
中央学童保育クラブ	町田第一小					○
学童21保育クラブ	町田第二小		○	△		
竹ん子学童保育クラブ	町田第三小		○			○
森野学童保育クラブ	町田第四小					○
ころころ学童保育クラブ	町田第五小		○	△		
高ヶ坂学童保育クラブ	町田第六小			△	○	
南大谷学童保育クラブ	南大谷小		○			
藤の台ポケット組学童保育クラブ	藤の台小				○	
藤の台学童保育クラブ	本町田東小				○	○
本町田学童保育クラブ	本町田小					
金森第二学童保育クラブ*	南第一小	○				○
そよかぜ学童保育クラブ	南第二小					
金森学童保育クラブ	南第三小					
どろん子学童保育クラブ	南第四小		○			
つくし野学童保育クラブ	つくし野小					
わんぱく学童保育クラブ	小川小					
すまいる学童保育クラブ	成瀬台小					
鶴間ひまわり学童保育クラブ*	鶴間小		○			
高ヶ坂けやき学童保育クラブ	高ヶ坂小					
成瀬中央あおぞら学童保育クラブ	成瀬中央小					
なんなる学童保育クラブ	南成瀬小					
南つくし野学童保育クラブ	南つくし野小					
野津田学童保育クラブ	鶴川第一小					
鶴川第二学童保育クラブ	鶴川第二小					
鶴川学童保育クラブ	鶴川第三小		○	○	○	
鶴川第四学童保育クラブ	鶴川第四小					
金井学童保育クラブ	金井小					
大蔵学童保育クラブ	大蔵小			◎		○
三輪子どもの学園学童保育クラブ	三輪小	○	○	○		
なかよし学童保育クラブ	忠生小					
小山田学童保育クラブ	小山田小					
木曾学童保育クラブ	忠生第三小					
山崎学童保育クラブ	山崎小					
子どもの森桜台学童保育クラブ	小山田南小	○	○	◎	○	
木曾境川学童保育クラブ	木曾境川小					
七国山学童保育クラブ	七国山小			△		
函師学童保育クラブ	函師小		○			
小山学童保育クラブ	小山小					
小山ヶ丘学童保育クラブ	小山ヶ丘小					
小山中央学童保育クラブ	小山中央小					
相原たけの子学童保育クラブ	相原小					
大戸のびっ子学童保育クラブ	大戸小					
つるっこ学童保育クラブ						

*金森第二学童保育クラブ、鶴間ひまわり学童保育クラブについては、2015年度に整備を予定しており、該当する課題が解消される見込み。

資料4 整備の必要性の高い学童保育クラブにおける優先順位(仮)

2015年4月1日時点

学童保育クラブ名	小学校区名	優先順位	現状と課題	遠距離	狭あい化	衛生設備不足	老朽化施設	老朽空調設備
				○=小学校から道のりで約400m以上離れている。	○=1人あたりの専用スペースがおおむね1.65㎡を満たさなくなる見込み	△=手洗いが不足 ○=トイレが不足 ◎=トイレ・手洗い両方が不足	○=築年数が20年以上を経過	○=耐用年数(15年)が経過している。
子どもの森桜台学童保育クラブ	小山田南小	1	小学校から500m以上離れているだけでなく、狭あい化が相当進んでいる。また、室内用手洗い場が設置されておらず、トイレも入会児童数に対して少なく男女別となっていない。トイレの老朽化により、臭気が部屋に漂うことも保護者等から指摘されている。	○	○	◎	○	
三輪子どもの学園学童保育クラブ	三輪小	2	小学校から600m以上離れているだけでなく、施設が狭あい化している。また、トイレも入会児童数に対して少ない。	○	○	○		
鶴川学童保育クラブ	鶴川第三小	3	施設の面積が小さく、狭あい化が進んでいる。さらに、入会児童数に対してトイレが不足しており、男女別になっていない。また、施設が築23年を越えており、老朽化が相当進んでいる。		○	○	○	
大蔵学童保育クラブ	大蔵小	4	児童数が市内で3番目に多いが、トイレが入会児童数に対してかなり少なく、また男女別になっていない。空調設備も設置から15年を経過しており、老朽化が進んでいる。			◎		○
学童21保育クラブ	町田第二小	5	周辺の開発等の影響で児童数が増加傾向にあり、施設が狭あい化している。また、それに伴い、入会児童数に対する手洗いの蛇口も不足している。また、トイレも男女別となっていない。		○	△		
藤の台学童保育クラブ	本町田東小	6	施設が築25年を越えており、また空調設備も設置から17年となり、老朽化が相当進んでいる。児童数はそれほど多くないが、トイレは男女別となっておらず、さらに老朽化の影響で室内に臭気が漂うことが保護者等から指摘されている。				○	○
高ヶ坂学童保育クラブ	町田第六小	7	施設が築22年を越えており、老朽化が相当進んでいるが、2013年度に床を全面改修しており、児童が日常的に過ごすスペースは問題はない。一方、児童数はそれほど多くないが、室内用手洗い場が設置されておらず、トイレが男女別となっていない。また、室外機1台で室内の空調設備をすべて繋いでいるため、室外機が故障すると空調設備が全く使えなくなる。			△	○	○

※上位7クラブのみ表示。

※優先順位は、特に整備の必要性が高い学童保育クラブについて、現時点での運営上の課題も含めて精査し、便宜上設定したもので、今後変更する可能性があります。

資料4 整備の必要性のある学童保育クラブにおける優先順位(仮)

2015年4月1日時点

学童保育クラブ名	小学校区名	優先順位	現状と課題	遠距離	狭あい化	衛生設備不足	老朽化施設	老朽空調設備
				○=小学校から道のり約400m以上離れている。	○=1人あたりの専用スペースがおおむね1.65㎡を満たさなくなる見込み	△=手洗いが不足 ○=トイレが不足 ◎=トイレ・手洗い両方が不足	○=築年数が20年以上を経過	○=耐用年数(15年)が経過している。
ころころ学童保育クラブ	町田第五小	8	小型児童館に併設された施設だが、入会児童数が増加傾向にあり、学童保育クラブの専用スペースが狭あい化している。また、入会児童数に対する手洗いの蛇口の数不足している。		○	△		
竹ん子学童保育クラブ	町田第三小	9	入会児童数が増加傾向にあり、狭あい化が進んでいる。また、空調設備はすべてGHPとなっているが、設置から15年を経過しており、老朽化が進んでいる。		○			○
函師学童保育クラブ	函師小	10	入会児童数が増加傾向にあり、狭あい化が進んでいる。		○			
七国山学童保育クラブ	七国山小	11	児童数が市内で2番目に多いが、入会児童数に対する手洗い場が不足している。			△		
森野学童保育クラブ	町田第四小	12	空調設備はすべてGHPとなっているが、設置から18年を経過しており、老朽化が進んでいる。					○
中央学童保育クラブ	町田第一小	13	空調設備はEHPとGHPの複合となっているが、GHPは設置から18年を経過しており、老朽化が進んでいる。					○
南大谷学童保育クラブ	南大谷小	14	入会児童数が増加傾向にあり、狭あい化が進んでいるが、推計上は一時的となる見込みである。		○			
どろん子学童保育クラブ	南第四小	15	入会児童数が増加傾向にあり、狭あい化が進んでいるが、推計上は一時的となる見込みである。		○			
藤の台ポケット組学童保育クラブ	藤の台小	16	施設が築22年を越えており、老朽化が相当進んでいる。空調設備は2011年度に更新しているが、床の経年劣化が進んでいる。				○	

※優先順位は、現時点での運営上の課題も含めて精査し、便宜上設定したもので、今後変更する可能性があります。

※優先順位の設定にあたって、客観的なデータで判断できない場合は、これまでの事例を参考に、児童の生活に与える影響度を考慮することで判断しています。